



10月14日 晴れ時々曇り。

まず、前回(9月23日)の縄文の森塾で、刈り取り、稲木で天日干しをしていた稲の脱穀をしました。

脱穀は、江戸時代に発明された「千歯(せんば)こき」と大正時代から使われ始めた「足踏み式脱穀機」を使って、昔ながらの脱穀を体験しました。



「千歯こき」による脱穀では、粃(もみ)をこき落とすのに大変な力が必要で、昔の人たちの苦勞を身をもって感じていました。この後、粃摺り、精米をして、12月にお餅つきを行います。

次に、6月に植えたサツマイモを掘りました。今年は、過去125年で最も暑い夏となったため、芋の生育が心配でしたが、大人の握りこぶし2つぐらいの芋を掘りおこして、「すごい、大きい」と歓声があがっていました。収穫したお芋は家族へのお土産として持ち帰りました。



昼食は、朝、塾生がさや取りし、調理サポーターに料理していただいた丹波黒豆の枝豆ごはんとクリームシチュー。「美味し〜い、いくらでも食べられる」と言って、おかわりする塾生が続出しました。



午後からは、杉本自然体験活動サポーターの指導で、竹弓で矢を射る体験をしました。

弓矢は、縄文時代に登場した狩りの道具で、今日、体験する弓と矢は、杉本サポーターの手作りです。弓を射る姿勢や矢の持ち方を教わり、初めのうちは、なかなか飛ばなかった矢も、何度も練習をすると15mも飛ばず塾生も出てきました。

